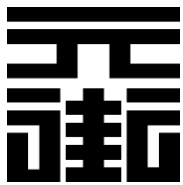


令和8年4月30日



横浜市立元街小学校

令和8年度 学校だより 5月号



Tel 681-7810 Fax 662-5842

おんがくちょうかい こうか ぜんこう うた
音楽朝会で校歌を全校で歌いました

校長 工藤 雅彦

新緑のまぶしい季節となりました。子どもたちは、新しい環境にもだいふ慣れ、自分らしさを発揮しています。

先日、本年度初めての音楽朝会が体育館で行われました。本校では年間を通し、月に1回程度全校で集まり、課題曲を歌声合わせて歌ったり、発表学年の歌や合奏を聴いたりして音楽を楽しんでいます。第1回は毎年校歌を歌います。1～4年生は主旋律を歌い、5・6年生は副旋律を歌う全校合唱になります。とても素敵です。1年生は入学式に初めて聞いた校歌でしたが、短期間でよく覚え、歌詞カードを見ながら歌う子たちもいましたが、すでに歌詞を暗記して歌っている子もいました。5年生は初の副旋律でしたがしっかり歌えていました。元街小学校は高学年がよく声を出して歌えるのが素晴らしいです。また、1回歌った後、6年生の有志十数人がステージ上で歌い、音楽専科の先生と共に「姿勢・口の開け方・息の吸い方」といった、歌い方のポイントを指導してくれました。その効果はよく表れ、2回目に歌ったときは力強く、レベルアップしていました。歌声が響く学校はとても素敵です。これからも音楽に親しんでほしいと同時に、行事や音楽朝会など、全校で心と歌声を合わせ、響かせるよさや力を感じ取ってほしいと思います。

さて、5月4日は元街小学校の153回目の創立記念日です。創立記念式は5月1日に行い、その時にも全校で校歌を歌います。元街小学校の校歌は創立して40年ほど経った1914年(大正3年)に「横浜市尋常高等元街小学校」の校歌として誕生しました。作曲者は島崎赤太郎さんという方です。島崎赤太郎さんは1874年生まれで、一家はクリスチャンだったそうです。父親は大工の棟梁でしたが、オルガン作りもしたそうです。東京音楽学校(東京芸術大学)に入学し、その後ドイツに留学しオルガンと作曲を学びました。帰国後は母校で音楽理論とオルガンを教え、オルガン奏者としてその普及に尽力しました。また、作曲の重鎮として日本の公式曲を作曲したり、多くの楽曲を作曲したりしました。その一つが元街小学校の校歌です。明るさと気品・広がりのある響きの二長調で、アウフタクト(弱起)の心地よい流れで構成され、リテヌート(すぐにテンポを落とす)も施されたドラマチックなメロディでもあり、晴れやかな讃美歌のように聞こえます。当時の元街っ子たちが元気よく歌っている姿が想像できます。やがて時代が大きく変わり、創立80周年の1953年(昭和28年)に歌詞は改められ、現在の校歌になっています。

【現在の歌詞】1953年～

三	二	一
ああ限りなき 永久に栄えん 希望の彼方 我等が元街	ああ輝ける 自治の光よ 愛の心よ 我等が元街	ああ光栄ある 築く建てる学び舎 我等が元街
高き理想を 胸にぞ抱き ゆるがぬ覚悟は 我等が守り	楽しく集う 尽くす誠は 我々が誇り 愛の心よ	常盤木茂る 山手が丘に 臨む港の 歴史と共に

【昔の歌詞】1914年～1952年

三	二	一
雄々しき国の 民と成りまし	君を敬い 親に仕えて 身をば 措かまし	学びの窓に 受くる教えは 友と親しみ 師押し崇めて 曇らぬ影を 愈々研がまし
心の舵に 前途を定め 驕る覚悟は 我等の護り 恥を慎み 憂きを忍びて	日毎の業を 弛まず励み 竭くす誠は 我等の光 君を敬い 親に仕えて	学びの窓に 受くる教えは 友と親しみ 師押し崇めて 曇らぬ影を 愈々研がまし

現在の歌詞は1番に元街小学校の紹介があります。常盤木とはこの辺りに多いヒマラヤスギでしょうか。港や歴史が元街小学校らしいです。2番は学校での子どもたちの目指す姿を示し、「楽しく・誠・愛・自治」などの言葉があります。3番は子どもたちや学校の未来に向けての思いや願いが示されています。比べてみると昔の歌詞と同じ言葉もいくつか残っているのが分かります。「楽しく集う」「尽くす誠」「覚悟」です。きっと変わらぬ元街小学校のスピリットなのでしょう。大切に歌い継いでいきたいと思います。